

(4) ②様式第4号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI / 12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

| | |
|-------------|---|
| NITS・教職大学院等 | 実施機関名・連携機関名 宇都宮大学教職大学院 |
| コラボ研修プログラム | テーマ： 「社会に開かれた教育課程」を実現するための学校・教師のあり方 －子どもたち一人ひとりの進路やニーズに応じるための地域との連携・協働を目指して－ |
| 支援事業報告書 | 研修等名：【NITS・宇都宮大学院コラボ研修】 「いま・ここ」に求められるキャリア教育のあり方 －キャリア・パスポート活用の意義を考える－ |
| | 開催日時：令和3年8月7日 13時～15時 開催場所：宇都宮大学峰キャンパス（栃木県宇都宮市峰町 350 オンライン開催） 参加人数（総数）と参加者の属性：（総数 88 人） 宇都宮大学教員 12 人、宇都宮大学教職大学院 28 人、栃木県内の教職員 44 人（教職大学院修了生も含む） 栃木県教育委員会・栃木県総合教育センター3 人 その他 1 人 |

内容： ※全体発表の内容をテブ起こしするなど、具体的に記載してください。研修等の様子は、写真を右に貼り付けてください。

冒頭、宇都宮大学大学院教育学研究科教育実践高度化専攻の日野圭子専攻長より、あいさつと企画について説明があった。

続いて、講師の筑波大学人間学群教育学類教授の藤田晃之先生から「『いま・ここ』に求められるキャリア教育のあり方-キャリア・パスポート活用の意義を考える」の演題で講話をいただいた。講話では、児童・生徒に求められる資質・能力の政策的な変遷を押さえた上で、単なる知識・技能を学ぶだけでなく、その知識・技能を十分に活用してより良い社会の実現に参加すること、その営みをメタ認知することの重要性について、まず確認があった。すなわち「主体的・対話的で深い学び」がなぜ児童・生徒に求められるのか、それと関連して新しい学習指導要領の改訂に際し、なぜキャリア教育が総則の内容に入れられたかといった学校現場においてタイムリーな話題からキャリア教育の必要性やキャリア・パスポートの意義について話が始められた。次にキャリア・パスポートの具体的な内容について説明がなされた。その中で「小学校の担任が記述してくれた記録（キャリア・パスポート）を高校生になった子が読むことを想像してみてください。それはその子にとって大変価値のある贈り物になると思います。」という話があった。教育という営みが即時的なものではなく中長期的にその子の成長を願う試みであり、その有効なツールとしてキャリア・パスポートの活用が想定されていることを参加者が共有できたものとする。

講演を踏まえ、活発な質疑応答がなされた。具体的には特別支援教育においてキャリア・パスポートの活用をどのように考えれば良いのかといった質問が出された。藤田先生より「そもそもキャリア・パスポートは、特別支援教育における個別の支援計画や個別の指導計画を参考にしたものであるため、それらの活用と合わせて考えた方が実践しやすいのではないか。」といった回答があった。

最後に、日野専攻長から講師への謝辞があり、研修会を終了した。

成果： ※参加者の声など客観的な情報・データとともに記入して下さい。

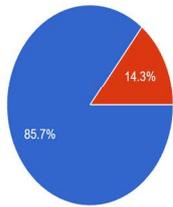
講演会当日は、88名の参加があった。事後アンケートを行い、49名から回答があった。以下のグラフに在るように、「大変参考になった（85.7%）」、「参考になった（14.3%）」という企画について高い満足度が得られた。好意的な回答の内、具体的な内容を複数回答で確認したところ、「受講前よりもキャリア教育について興味・理解が深まり、キャリア教育に取り組む意欲が高まった（75.5%）」、「キャリア教育の実践にこれからとり入れたい内容があった（55.1%）」というような結果が明らかとなった。

参加者の声の一部を以下に紹介したい。「現場では、キャリア・パスポートが流れ作業的になっているのを改めて実感しました。意義をもう一度確認し、キャリア・パスポートの中身も行事だけではなく学習に関するものも一部入れたりすると良いのかな、とも思いました。校内でキャリア教育の勉強をし直し、内容等の見直しを今後行っていく必要性を感じました。」「キャリア教育は、日々の学校教育におけるすべての活動で非常に大切になってきていると感じます。中学校で進路指導をしていると、将来の夢を持っていなかったり中学校での学びにどんな意味があるのかがわかっていなかったりする生徒が多くいます。授業や特別活動を中心にしっかりキャリア教育をしていかなければならないと強く感じました。」「キャリア・パスポートは特別支援教育での個別の支援計画を手本としているというお話がありました。引継ぎが重要である点や児童生徒へのこれまでの支援の経過を把握して今後の展望を見通すために大切な点等、共通点があると感じていたので、納得できました。」「実際にキャリア・パスポートのコメントを書いているときは、そこまで意図を感じられなかった。目の前にいる生徒が過去を振り返ったときに見ることは想

定していなかったもので、そのことを念頭に置いて書いていこうと思う。」

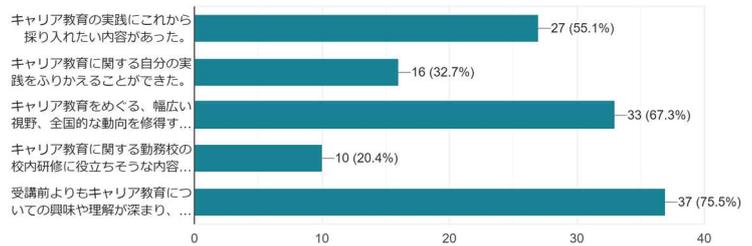
<事後アンケートの主な結果>

②本日の講演内容について、総合的な評価をお聞かせください。
49件の回答



- 大変参考になった。
- 参考になった。
- あまり参考にならなかった。
- 参考にならなかった。

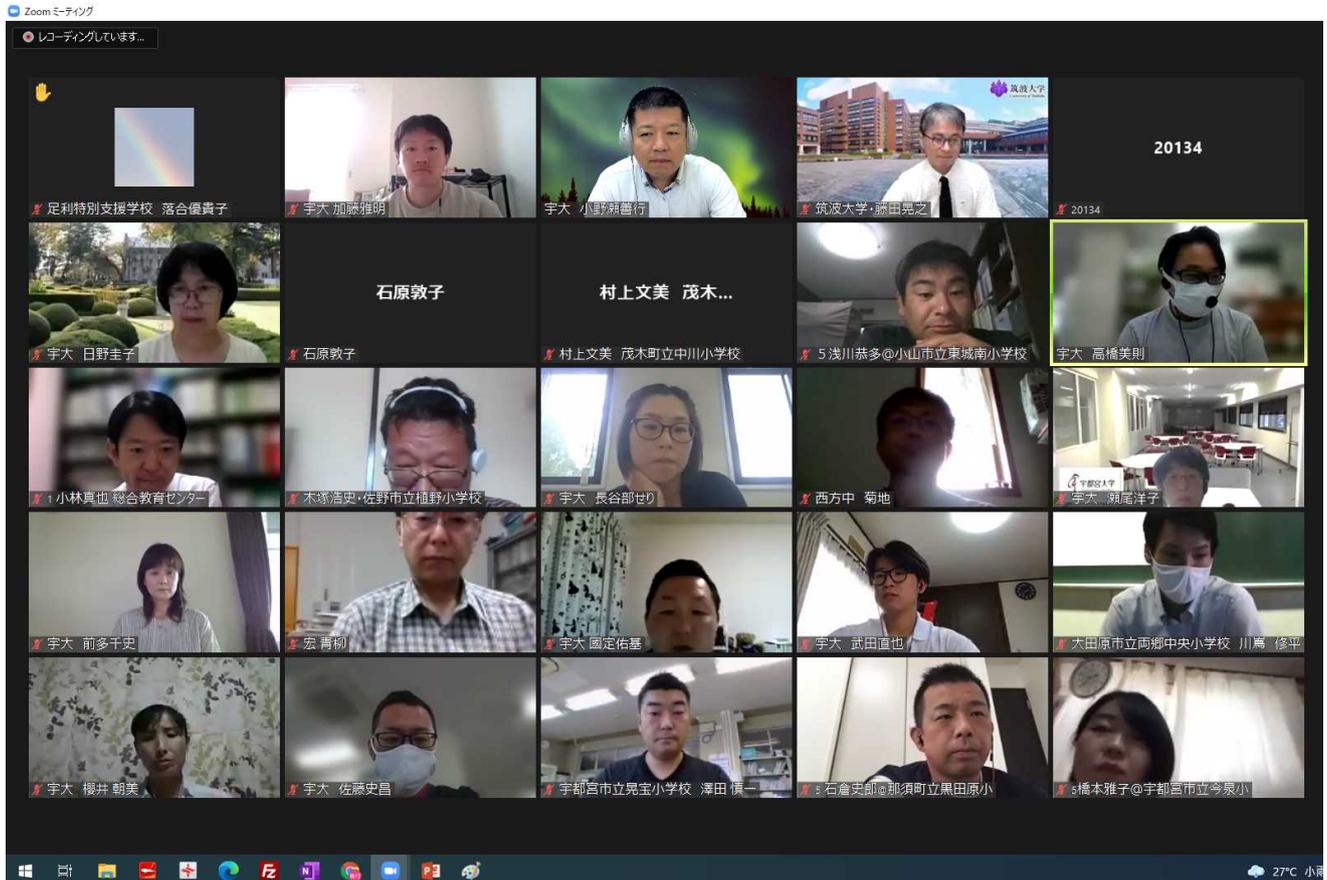
③ ②で「大変参考になった」「参考になった」...てはまる項目を選んでください（複数回答可）。
49件の回答



アイデアや工夫したこと：

- ・本事業を宇都宮大学教職大学院ホームカミングデー記念講演会として実施することで、現役院生、修了生、そして栃木県内の教職員がより効果的に交流できる場とした。また以上のアイデアにより、本学教職大学院及び教職員支援機構（NITS）の活動についても広く広報を行うように当日の運営を工夫した。
- ・新型コロナウイルス（COVID-19）感染症対策のためにオンライン（Zoom）にて開催した（オンライン開催であった方が参加しやすいという声もあった）。
- ・講演会の開催後、参加者有志で講演内容に関する文献を講読する学習会や協力者（修了生）を募りテーマに関連したキャリア教育に関する授業研究会を実施する等、学修した内容を学校現場に活かすように工夫をした（新型コロナウイルス感染症の拡大のため、授業研究会については一部未実施となった）。

<写真・図など>



(藤田晃之先生の講演のあと、質疑・応答を行っている様子。)